ペーパーマリオ　料理編

鈍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ペーパーマリオ　料理編

【Ｎコード】
Ｎ８３１１Ｙ

【作者名】
鈍

【あらすじ】
ペーパーマリオが、カレーを作ることにしました。
でも、ペーパールイージは、期待など全くしていませんでした。
ペーパーマリオは、美味しいカレーを作れるのか！？
そして、ペーパールイージの箝口令を敷けられるのか！？
気になる結果は、ここにあり！！

第一話「ペーパーマリオのお料理タイム！その1」（前書き）

僕はペーパーマリオ。
神でできているんだぞ！
（いや、あの……漢字が…違う……）

あ、しまった！つい、うっかりしちゃった！
（こんなんで大丈夫なのか？）

第一話「ペーパーマリオのお料理タイム！その1」

ＰＰＭ「～♪～♪」

（名前は、ペーパーマリオを縮めたものです。
ご了承のほどどうかよろしくお願いいたします）

ＰＰＭ「あ、そうだ。料理でもするかな」
と言って、ＰＰＭ（ペパマリ）は料理をすることにした。

第一話
「ペーパーマリオのお料理タイム！その1」
はっじまっるよ～（終れ）

ＰＰＭ「よし！今日の夕飯はカレーだ！！」
ＰＰＬ「何だ。ＰＰＭにしては珍しいな。明日は嵐が襲って来るかもな…」
ＰＰＭ「珍しくなんかないぞ！僕だって、やればできるんだぞっ！」

堂々とＰＰＭは、意地を見せ付ける。
ＰＰＬはまるで、「やれやれ」と言うかのように、リビングに戻る。
ＰＰＭは少しイラッときた。
あれが弟だと思うと、泣けてくるぐらいだ。
勿論、弟のほうもそう思っているかもしれないが。

ＰＰＭ「……今に見てろ！！絶対に美味しいカレーを作ってみせる！

そして、ＰＰＬをうならせる！そう、僕は信じよう」

といって、材料を買いに行くことにした。
少々心配だが、ここはカットしよう。
ＰＰＭ「何故っ！？」

第二話「ペーパーマリオのお料理タイム！その2」（前書き）

前回の、材料を買ったところから始めます。

第二話「ペーパーマリオのお料理タイム！その２」

ＰＰＭ「えっ～と、何々？」

ＰＰＭは恥ずかしながらも、レシピを見ながら作っているぞ！
カレーの作り方を知らない人なんて在しているのだろうか。

ＰＰＭ「包丁で切らないとね」

そう言って、先に牛肉を切り始めた！

［ザクッ、ザクッ］

どうしてか、牛肉なのにザクッという音がする。
ＰＰＭの包丁の使い方を知りたい……。

第二話
「ペーパーマリオのお料理タイム！その２」

［ザクッ、ザクッ、ザクッ］

ＰＰＭ「ふぅ～、上手く切れたぁ」

本当かよ。

ＰＰＭ「次に、野菜を切るよ…（緊張気味）
まずはタマネギ……うわぁ、目がしみる……」

もしかして、ＰＰＭはキッチンに立つのが初めてではないだろうかと疑問を持ってしまう。

ＰＰＬ「何か、包丁の音がノイズに聞こえてしまう……」
ＰＰＭ「うるさいなぁ…それだったら自分で作ったらどうなんだ」
ＰＰＬ「そっちのほうがうるさい…。それに、自分で言い出したんでしょ？作りたいって」
ＰＰＭ「……そうでした」

ＰＰＭ「ニンジン、じゃがいもも切らなきゃ」

［グサッ］

ギャァアアアアア！！！！！

ＰＰＬ「な、なんだ！？
うわっ！紙切れ……も、もしや？」

ＰＰＭ「自分、切れました」
ＰＰＬ「ＰＰＭはバカか？」

自分を切ってしまう事件発生！！

この調子で、本当に大丈夫？

第三話「ペーパーマリオのお料理タイム！その３」（前書き）

前回、包丁で野菜を切っていたら、自分が紙なため切れてしまった！
次はどうなる？？

第三話「ペーパーマリオのお料理タイム！その３」

ＰＰＭ「イタタタタ……」
ＰＰＬ「イタタではすまないぞ？全く……。
　心配だから、手伝ってやるよ」
と言って、その後の作業はＰＰＬがした。

第三話
「ペーパーマリオのお料理タイム！その３」

ＰＰＬ「わぁっ！何だこの切り方はぁ！！
　乱切りすぎるにもほどがあるだろ！」
ＰＰＬがいきなり切れた。
……切り方に。
ＰＰＭ「これでも、ちゃんとできたほうだよ？」
ＰＰＬ「……」
ＰＰＭ「さぁさぁ！牛肉を入れよう！！」
ＰＰＬ（ちゃんとできたほう……？
　なら普段どおりはどんな切り方をしてるんだ？）
ＰＰＭ「次、野菜炒めよう！！」
ＰＰＬ「炒め終わったら、牛肉を戻す……っと」

ＰＰＭ「なんで戻す必要が？」
ＰＰＬ「焦げるだろ？！それぐらい分かってくれよっ！」
ＰＰＭ「あぁ、そっか」

ＰＰＭが変なところに納得した次の瞬間！

ＰＰＭ「あっ！！！」
ＰＰＬ「？」

［ジューーー］

ＰＰＭ「アウチ！！アッワワワ！！！！」

ＰＰＭは焦げた。
やはり、料理になれていないようで。

ＰＰＬ「……何をやっているんだが」

ＰＰＬは呆れ返った。
そして、カレーがまもなく完成する手順まできた（早）

第四話「ペーパーマリオのお料理タイム！その４」（前書き）

前回、ＰＰＭが紙なため焦げてしまった。
でも、そろそろカレーは完成！腕前は？ＰＰＭは？

第四話「ペーパーマリオのお料理タイム！その４」

ＰＰＭ「盛り付け……ＰＰＬ…お願い…」
ＰＰＬ「これじゃあ、ペーパールイージのお料理タイムになっちゃうじゃないか。
　ＰＰＭが最後にビシッと決めなきゃ」
ＰＰＭ「ＰＰＬ……」

ＰＰＭは、ご飯の上にカレーをかけた。
そして、短かった（ぇ）料理タイムもついに終わりを告げる……。

第四話
「ペーパーマリオのお料理タイム！その４」

早速、他の人に食べさせてあげることに。
ＰＰＴ（キノピオ）「わっ！！美味しいです……特にカレールーが……」
ＰＰＬ「（笑）」←カレールー担当
ＰＰＭ「（怒）」←材料担当

ＰＰＰ（ピーチ）「見た目はいいですけど……」
ＰＰＭ＆ａｍｐ；ＰＰＬ「うん、うん！」
ＰＰＰ「……お口に合いませんわ」
ＰＰＭ＆ａｍｐ；ＰＰＬ「ガーン…」

ＰＰＫ（クリボー）「……上手い」
ＰＰＭ＆ａｍｐ；ＰＰＬ「ヤッターァ！！」
ＰＰＫ「くそっ！配管工のくせして……（泣）
　クッパ様に言いつけてやるーぅうわあん！」
ＰＰＭ「やっぱり、美味しいんだな」
ＰＰＬ「当たり前だろ！ボクも手伝ったんだし」
なんだかんだ言って、二人とも嬉しい様子。

第五話「ペーパーマリオのお料理タイム！その５」（前書き）

前回、ＰＰＭとＰＰＬは大いに喜んだ。
ここで終わりかと思いきや……？

第五話「ペーパーマリオのお料理タイム！その５」

ＰＰＭ「……ＰＰＬ」
ＰＰＬ「……？」

ＰＰＭ「ちょっと君に食べてほしいんだ」
ＰＰＬ「な、何？急に…」

第五話
「ペーパーマリオのお料理タイム！その５」

ＰＰＭ「ほら。僕が一人で作ったんだ」
ＰＰＬ「こ、これはカレーじゃないか！いつの間に……？」
ＰＰＭ「昨日作ったんだ」
ＰＰＬ「今日も作って、昨日も作ったのか！？」
ＰＰＭ「明日のための練習だよ」
ＰＰＬ「ＰＰＭ……そこまでして…うん、いただくよ」

何と、ＰＰＭは昨日もカレーを作っていた！
なのに、レシピを覚えない！！

ＰＰＬ「美味しい！…美味しいよこれ！！」
ＰＰＭ「ふふ…そうだろ？ＰＰＬ。オレも頑張ればできるんだぞ」
ＰＰＬ「有難う……流石兄さんだね…！」

ＰＰＭ「まぁ、“インスタント”だけどね」
ＰＰＬ「……へ？い、今、何と……？」

ＰＰＭ「イ　ン　ス　タ　ン　ト」

ＰＰＬ「…　…　…　…　…」
ＰＰＭ「どうしたんだ？急に」
ＰＰＬ「インスタント……だってぇ？

コラーーーー！！！！自分で作りやがれぇぇ！！」
ＰＰＭ「ご、ごめんなさーーーい！！」

第五話「ペーパーマリオのお料理タイム！その５」（後書き）

ＰＰＭ「インスタントのどこがいけないんだろ？
　みんな、インスタントって上手いよね？」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8311y/

ペーパーマリオ　料理編

2011年11月24日21時04分発行